

参考 2

平成24年度に重点的に取り組む課題の概要

課題名	カラマツ造林の低コスト化をめざして ～カラマツの天然更新を利用した造林技術の開発～
取組の内容	北海道においては、カラマツ資源の減少が危惧され、またカラマツ苗木が不足しているところである。また、伐採後に適切な更新が行われるよう、再造林コストの低減を図る必要がある。 このような中、カラマツ人工林の帯状伐採跡地において、天然更新によりカラマツ林に誘導するため、異なる地がき幅での地表処理、下刈の有無による天然更新状況や他植生との競合状況の比較、側溝の設置によるササの発生抑制効果の検証等を行い、天然更新を利用したカラマツ低コスト造林施業の可能性を追求する。
実施項目	① 地がき幅別（5m、10m）の天然更新状況比較 ② 下刈の有無による更新稚樹の生長比較 ③ 側溝設置によるササ抑制効果の検証 ④ 造林コスト比較
実施機関	北海道森林管理局 森林技術センター
協力機関	—

天然更新：伐採跡地等において、主として天然の力によって次の世代の樹木を発生させること。自然に落ちた種子が発芽して生長する場合と、樹木の根株からの発芽等により生長する場合がある。

地がき：天然更新を促すため、地表をかき起こすこと。

課題名	エリートツリーコンテナ苗と下刈等省力化の実証試験
取組の内容	九州森林管理局は、造林初期投資の軽減を図るため、コンテナ苗を活用した低コスト造林に積極的に取り組んでいるところである。 さらなる造林の低コスト化を目的に、優れた初期生長を示すとして林木育種センターにおいて開発が進められているエリートツリー（第二世代精英樹）候補木を、コンテナ苗として活用することにより、植栽・保育（下刈）作業の低コスト化と労働負担の軽減について実証試験を行う。
実施項目	① コンテナ苗・裸苗の植栽工期比較 ② 下刈省力化による植栽木の生長比較 ③ エリートツリー苗の植栽時期別の活着率及び生長の比較 ④ 造林・保育コストの比較
実施機関	九州森林管理局 森林技術センター
協力機関	森林総合研究所林木育種センター九州育種場

エリートツリー：優良な精英樹（生長の度合、材質などの特にすぐれている樹木）同士を交配した品種。第二世代以降の精英樹。

コンテナ苗：マルチキャビティコンテナ（根巻き防止などの工夫が施されたプラスチック製の苗木生産用容器）で生育した苗木。ピートモスなどを材料とした培地付き苗木であることから、植栽の効率を高めることや、良好な初期生長が期待される。